

CASP パイロット活動郡の社会調査結果 事前事後の比較概要

1) 保護者の保護者の知識・態度(意識)・行動(実践) (Knowledge, Attitude and Practice: KAP) 調査

- ① KAP 指標: 事前と事後の比較をすると、数値が全て上がっており、プロジェクトの目標値を満たしていた。

KAP	調査	ダディン郡	シラハ郡	カトマンズ郡
知識	ベースライン	47.01%	66.28%	84.00%
	エンドライン	84.68%	85.40%	93.50%
態度 (意識)	ベースライン	79.60%	78.51%	76.00%
	エンドライン	95.57%	89.42%	94.50%
行動 (実践)	ベースライン	65.95%	71.10%	62.00%
	エンドライン	90.02%	85.45%	84.00%
平均	ベースライン	64.2%	72.0%	74.0%
	エンドライン	90.1%	86.8%	90.7%

②各 KAP 指標と関連性が強かった活動:

- 「優秀な生徒へのインセンティブの提供」、「コミュニティと子どもたちの間の交流プログラム」、「コミュニティによる学校関連施設の提供」、(以上、ダディン郡で)
- 「家庭訪問」(以上、シラハ郡で)
- 「労働力の提供」、「お金やその他の寄付」、「オリエンテーション会議」(以上、カトマンズの SOP 実施地域で)
- 「啓発ワークショップ」、「子どもクラブ」、「教室運営委員会の運営」(以上、カトマンズの FSP 実施地域で)
- 「優秀な生徒へのインセンティブの提供」、「家庭訪問」、「授業参観」(以上、NGO が 3 年間最後まで活動した地域ならびに、他の NGO が同時に活動していた地域で)
- 「労働力の提供」、「お金やその他の寄付」、「優秀な生徒へのインセンティブの提供」(以上、NGO が総合的なコミュニティ啓発活動を行った地域で)

2) ASP 状況調査

- ① SOP 教室において、“正規学校への編入できた生徒の数(SOP を修了出来た生徒で正規学校へ編入できた割合と、最初に SOP 教室に入った生徒のうち最終的に正規学校へ編入できた割合)”と、“目標とすべき第 4 学年に編入できた生徒の割合”

指標	調査	ダディン郡	シラハ郡	カトマンズ郡
正規学校への編入率 (SOP 修了生)	ベースライン	84%	76%	N/A
	エンドライン	100%	58%	100%
正規学校への編入率 (初年度 SOP 登録生)	ベースライン	58%	57%	N/A
	エンドライン	73%	58%	82%
第四学年への編入生	ベースライン	74%	80%	N/A
	エンドライン	57%	100%	66%

②FSP 教室において、“FSP 教室を修了できた生徒の割合”と、“正規学校への編入できた生徒の数（FSP 教室を修了できた生徒で正規学校へ編入出来た割合と、最初に FSP 教室に入った生徒のうち最終的に正規学校へ編入できた割合）”

指標	調査	ダディン郡	シラハ郡	カトマンズ郡
FSP 修了生	ベースライン	80%	N/A	N/A
	エンドライン	68%	83%	35%
正規学校への編入率 (FSP 修了生)	ベースライン	75%	N/A	N/A
	エンドライン	100%	41%	92%
正規学校への編入率 (初年度 FSP 登録生)	ベースライン	60%	N/A	N/A
	エンドライン	68%	34%	32%

③CASP による ASP 教室の状況やその効果、問題点

一般条件

- SOP は仮説分校型で正規学校が近くでない所で設置されるが、正規学校が近くにあるのに運営されたものがあった。ASP 教室を始める際の設置場所選定(基準)が重要である。
- ASP は、子どもの事情に合わせて、教授時間や時間帯を柔軟に設定できるため、生徒や親からの評価が高い。
- 1 日の教授時間は 4 時間と規程されているが、FSP の場合はカリキュラムの難易度が高く、十分でないと感じているファシリテーター(教師役)や子どもが多い。

施設

- 狭い間借りをした教室など、設備が十分でない ASP 教室は、子どもの印象も悪く、子どもの成績や活動にも影響しているので注意が必要。ただし、FSP 教室は正規学校で実施されたケースが多く、施設の満足度が高い。
- 男女別のトイレのニーズが高い。
- コミュニティの意識が高ければ、労働力やお金・物質の提供などをコミュニティから得られ、施設も建設したり、改善したりしやすくなる。

教材

- 各種教材の支給は一般の ASP 教室よりよくできており、特に、制服やカバンの支給の評価は高い。ただし、支給が遅れた地域もあり、支給方法には依然として改善の余地がある。

カリキュラム

- SOP は正規学校のカリキュラムと同じであるが、FSP は正規学校では 5 年で教える内容を 3 年で教えるものである。そのため、内容が難しく、現在の教授時間では間に合わないとの意見が多い。
- FSP は国内難民を含めた都市部への流入移民や季節労働者など貧困家庭出身の子どもを対象にしているため、一般的な教育内容だけでなく、職業訓練的ならびにライフスキルを教える内容になってほしいとの意見が多い。

課外活動(子ども会など)

- 一般的な ASP には見られない活動であり、費用があまりかからず、一方で、子どもの活発さや社会性を養うことにも役立っているため、評価が高い。

マネジメントシステム

- 教室のマネジメントのみならず、コミュニティの教育や ASP への関与を高める目的でも、教室運営委員会は重要。

- 正規学校のASP教室・生徒に対する理解や補助を高めるためにも、定期的なモニタリングが重要。ただし、正規学校の関係者は忙しく負担がかかるため、負担軽減の方策を考える必要あり。今は校長がモニターの中心となっているが、一般の教師も巻き込むことが重要か。

ネットワーク

- 関係者を全て呼んで、ASP教室の現状や問題点ならびにその解決方法を共有・協議する定例会議は、非常に重要で、効果的である。
- コミュニティ活動を行うNGOは地元で既によく活動しているものでなくてはならない。
- 郡教育事務所はもちろんであるが、郡開発委員会や村落開発委員会など教育を含んだ地域開発を行う行政機関を巻き込むことが必要である。
- CASPが終わってからは、リソースパーソン(郡教育事務所関係者)や正規学校のさらなる関与が重要である。

コスト

- やはり他のASPと違って、CASPの補助が大きい。これからはその代替を検討する必要がある。

教師の質

- ファシリテーターは、教授法や知識に関しては正規学校の教師に劣るが、態度や意欲はそれに勝るとも劣らない質を確保できている。また、CASPでは十分な追加研修も受けているため、周りからの評価が高い。一方で、その給与の安さが問題視されている。また、ASP教室では女性のほうがファシリテーターに向いているという意見も多いが3年間のプログラムなので妊娠(産休)などの問題もある。ファシリテーターとしての資格や選定法も注意が必要。
- 教育ボランティアは、意欲の高い者が集まっており、費用もかからず、特に、課外活動などでの利用効果が高い。ただ、教授法や知識ではやはりファシリテーターに劣るため、さらなる効果を期待するのであれば、教育ボランティア用の研修の充実が必要である。

修了生の質

- 通常の正規学校の生徒と比べて、ASP教室の修了生の学力は高いという意見と低いという意見の両方がある(ASP教室の修了生が正規学校に編入する学年がまちまちであることも影響していると考えられる)。一方で、課外活動での積極性や社会性、勉強への意欲は、ASP教室の修了生の方が、通常の正規学校の生徒と比べて高いとの意見が多い。
- 正規学校に編入したASP教室の修了生で、今後もより高次の教育に進みたいと願う生徒の割合が高い。

その他

- 貧困や転居/帰郷、やはり生活ため働かないといけないなどの理由によってASP教室を途中でドロップアウトした生徒は依然として多い。ただし、その中には、他の地域で引き続き教育を受けている生徒や、ドロップアウト後ASP教室には戻らなかったものの、正規学校に編入できた例も見られる。途中でASP教室をドロップアウトしても、他地域やまた別の期間にASP教室や正規学校に入りやすくなるように、ASP教室の年度ごとに成績証明書(成績表)を発行することも重要である。
- 特にSOP教室において、想定される年齢より下の生徒を受け入れているケースが見られる。これは学習困難によるドロップアウト率の増加にもつながることであるため、最初の受け入れ年齢に関して注意が必要である。
- 依然として貧困家庭にとっては、教育の敷居が高い場合が多い。費用がかかるため、誰がその費用を負担するか(できるか)の検討が必要であるが、奨学金の提供や、ASP教室における食事の提供、貧困削減プロジェクトとの連携も考慮する必要がある。